

2022年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：2022年4月1日
至：2023年3月31日

評価基準日 2023年4月1日

学校法人栗岡学園
阪奈中央リハビリテーション専門学校
理学療法学科／作業療法学科

学校関係者評価 評価委員

(順不同・敬称略)

委員長 米澤 泰司

委員 大原 敏敬

委員 宮野 博

委員 前原 園代

委員 川原 勲

委員 酒井 真紀

委員 谷川 優香

評価項目の達成および取組状況

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス
- 4 教育面などでの特筆すべき取り組み

自己評価回答責任者：

副校長 米澤 博隆

理学療法学科長 赤松 眞吾

作業療法学科長 福永 宜典

事務主任 伊丹 朋子

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	臨床現場で信頼される理学、作業療法士を目指し、知識、技術のみならず社会人として通用するよう指導にあたっている。	動物介在療法、スポーツリハに関連する科目などを設け、多様化する理学、作業療法士への医療・福祉・地域のニーズに対応したカリキュラムを継続して実施している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	今後も教育内容の見直しを図り、学習の効率化、オンライン授業等を含め、より学生の個性に合わせた効果的な教育手法を実施する必要がある。	○教育理念に則し、臨床を見据えた教育カリキュラムが実施されている。 ○OPT はスポーツリハ、OT は動物介在療法と、それぞれ独自の魅力的なカリキュラムもある。
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	時代のニーズに即し、地域リハビリテーション、予防リハ、がんリハ、生活行為向上マネジメントなど現代のリハビリテーション医療に不可欠な内容をカリキュラムに反映している。	知識・技術、情意・態度のバランスのとれた人材を輩出し、現場からも高評価をいただいている。 今後も職域を拡大するため、学修内容の見直しを定期的に行うことが必要。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	引き続き信頼される理学、作業療法士の育成を目標とし、職域の拡大や時代の変化に対応したカリキュラムに設定する必要がある。	○特徴のある教育内容を、もう少し卒後の臨床で生かせるように、カリキュラムに反映する必要がある。
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	新型コロナウイルス感染症の影響で一部の臨床実習と専門科目において実施できていない部分が生じていた。	特に2学年においては過密なスケジュールとなったが、臨床実習施設の拡充とスケジュールを行い、また学内実習を組み合わせ、年度内に規程の時間数を終了させることができた。時間割に学年間の偏りがある。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	授業スケジュールを調整することで学生の休養期間を確保し、過度に負担を与えないよう配慮する必要がある。	○過密スケジュールは従来通り進まず生じたものか？スケジュールの見直しも必要ではないか。 ○今後、コロナの影響を受けないスケジュールに早く戻していけるように。
4. シラバス（授業要項）を作成していますか(内容は適切ですか)	科目ごとの教授内容を明確化し、幅広い知識と技術が習得できるよう調整している。	指定規則改定により加わった新たな教授内容を盛り込んでいる。 科目間の内容のばらつきが減少した。科目間で重複した内容について調整している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	シラバスに提示された内容により学校の教育理念に合致するような科目内容がイメージでき、学習意欲が向上するように工夫する。	○良好に作成されている。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
5. カリキュラムの見直し体制はどのようなようにしていますか	教育ガイドライン、臨床実習ガイドライン、各科目担当講師などの情報や意見を集約し各学科で協議している。	オンラインで開催される教育学会や研修会に出向き、最新情報を入手し、計画に反映するよう心掛けている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	各種団体の要求水準と本校のカリキュラムを対比し、いち早く国、協会の水準に近づけるため、活発に意見交換をしていく。	○良好な見直し体制がとられている。 ○今後も現状や時代に合わせて適宜見直しを図っていくように
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	昨今の学生の状況や国家試験の出題傾向等を考慮し、また出版社の意見なども参考にし原則、科目担当講師が厳選している。	出版社から献本を積極的に取り寄せ、学生の現状に合致したテキストを選定している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	今後も学生の現状と国家試験の出題傾向などを考慮し、適切なテキストの選定を行う。学生の意見を踏まえ、購入後使用頻度の低い教科書については、改善を提案していく。	○現状に合わせたものが採用されている。 ○今後も現状や学生アンケートなどを踏まえて適宜見直しを図るように。
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	原則シラバス等で到達目標が示され、各科目で求める能力を問う試験を実施している。	原則科目評価は各講師が責任をもって行うが、学科内でも科目判定会議、進級判定会議を定期的実施し、厳正な評価するよう努めている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	学修目標を取り入れた目標に合致しているか評価する 新たに求められる能力要素があった場合には、成績評価ができるように追加する。	○良好に成績評価が行われている。 ○評価に不公平さや不明瞭さが出ないように、十分留意されている。
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	授業アンケート結果から、ほとんどの講師が学生の理解度に沿って授業を展開している。	学修範囲が広い科目では小テストや中間テストを実施するなどし、学生の理解度を確認しながら進めている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	学生による授業アンケート結果を担当教員や講師に適宜フィードバックし、次年度に向けた講義内容の調整を行っていく。	○現状を把握しながら進められている。 ○学生ごとで理解度は違うため、個人によってその課題を明確にしていくことも必要。
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	1年次よりグループ学習や学力アップ（専門基礎概論など）を取り入れて全体的な底上げを行う。入学前登校日にグループワークや特別講義を実施し、事前学習の重要性を伝えている。	面談やサークルワーク等で学生個々の課題を明確にして指導を行っている。 また、空きコマを活用し各学年で学力の補填を実施している。ただしカリキュラム外の活動が過剰にならないようにバランスを取りながら進める必要がある。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	新設科目で学習した内容や特別な補填が、専門科目や臨床実習にどのような効果を与えているか経過を追う。その結果を基に内容を見直していく。	○面談やサークルワークを取り入れ、フォローが必要な学生に必要な援助が与えられている。 ○担当する学生だけでなく、教員全体で個々の学生状況を共有していくよう意識し続けてほしい。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	臨床でのマナー・身だしなみ等については普通の学校生活から適宜指導している。当校敷地内では全面禁煙とし受動喫煙防止に努めている。	入学時から社会人、医療人に求められる姿勢、態度についてきめ細かい指導を実施している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	本校の教育方針の意図を理解していただけるように努める。教職員も手本を示し、職業人としてのマナーやモラルの向上を目指していく。	○適切かつ良好な指導が行われている。 ○特に医療人としての意識をもとにしたマナーやモラルの指導がなされている。
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	以下の内容に取り組んでいる ・認定理学、作業療法士取得 ・講義担当科目に関する研修会 ・学会発表 ・査読つき論文投稿 ・学位（修士、博士）取得準備	学科内で業務を調整しながら研修・研究等にかかる時間を確保する。スキルアップについて各自目標設定し、セルフマネジメントを継続していきたい。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	リハビリテーション医療の変化に対応した講義内容にするために計画的、積極的に学会発表、研修会参加、研究活動を実践し、教職員の質向上に努める。	○良好な研究、研修が実施されている。
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	講義の終講時に授業アンケートを全科目に対して実施している。	評価結果は希望に応じ閲覧できるようにしている。非常勤講師が授業評価を把握する方法の改善は必要である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	今後もアンケートは継続し、さらに、教員の能力開発の一環として、専任教員、非常勤講師ともにアンケート結果をフィードバックし、講義方法等を見直す機会を作っていく。	○適切に実施、反映されている。 ○非常勤講師にも、授業アンケートを提示していき、内容の改善を実施していく必要がある。

2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	教室等の部屋数や付帯設備に関しては十分である。ただ、一時期において、不足が生じることもあるが、学科間で調整を行っている。	講義棟、実習棟合わせて教室の数は十分であるが、HR 教室で単位認定試験を行うにはやや狭いため、別室で行う必要がある。視聴覚設備は充実しており、授業進行はスムーズである。実習棟の空調設備更新が必要。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	単位認定試験の実施教室は、レクレーション室や大研修室を活用している。HR 教室でも試験を実施できる対策を検討する。	○良好で、有効活用できている。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか(有効に活用されていますか)	基準を満たした蔵書数を保有している。 メディカルオンラインを導入しており、文献検索が容易になった。	同じ建物内に図書室があるため、利便性が向上したことによって利用率が向上した。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	引き続き配架を効果的に行い、利用の促進を図っていく。	○良好で、教員・学生ともに有効に利用されている。
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習教室については十分な数と広さがある。検査機器、研究機器を新規購入し、学習環境が向上した。	新指定規則に必要な物品が納入され、学習環境が向上している。今後も年間購入計画を作成し補充・更新していく。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	新規購入の必要な機材や更新が必要な機器の管理を徹底し、サービスが低下しないように努める。	○良好で、有効活用できている。
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか(有効に活用していますか)	各教室のプロジェクターやマイクについては利用できる環境である。	一部更新が必要な機器があるが概ね教育環境は充実している。 学内 Wi-Fi が充実し、利便性が向上した。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	授業やイベント時にも対応した環境を今後も整備していく。	○良好で、有効活用できている。
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか(有効に活用されていますか)	学生寮を保有している。 学生寮はキャンパス敷地内にある。	学生寮には専任の管理者を配置している。 オートロック付きの入口で、セキュリティ面は安心である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	試験や国家試験前など短期での利用をできるようにしていく。	○良好で、有効活用できている。 ○国試前の短期利用ができればより勉強に集中できるのではないか。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
6. 体育館や運動場などを保有していますか(有効に活用されていますか)	体育館、運動場ともに保有している。授業やレクレーション、また例年であれば式典で利用している。	和幸会グループのクラブ活動や、関連病院と連携し競技復帰前のスポーツ選手も活用している。芝生広場は、学生や法人の関係者をはじめ、近隣住民の方々にも開放し活用されている。 ホースセラピーを行う馬場が完成し、動物介在療法授業にも有効活用している。	5 4 3 2 1 十 ぶ 不 ← つ → 十 分 う 分	体育館は学生が普段から利用しやすいように管理・運営方法を検討している。	○良好で、有効活用できている。

3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	担任制をとっている。問題のあった学生については、毎朝のミーティング、学科会議、運営会議等にて担任だけでなく、教職員全体で対応を心かけている。	演習・臨床実習では、全専任教員指導体制により、個々のレベルに応じ、きめ細かい教育ができています。さらに随時面談を実施し、学科全体で学生の情報を共有している。	5 4 3 2 1 十 ぶ 不 ← つ → 十 分 う 分	教員の事務業務の効率化を図り、一層の教員の指導力と資質向上に努め、学生個々のレベルに応じたきめ細かい教育を継続する。	○適切な対応がなされている。 ○入学してくる学生のレベルの二極化が進み、様々な問題を抱えた学生も増えていると思われる。教員がフォローすることはもちろん、学生同士でフォローしていくクラス全体の雰囲気作りも大切である。
2. 学生に対してカウンセリング(心理相談)を行っていますか	学生本人の申し出または教員が必要と認められた場合は関連施設の臨床心理士のカウンセリングを推奨している。	臨床心理士と教員が連携し、担任だけでは対応しきれない問題のある学生については、臨床心理士に対応を委ねることもある。	5 4 3 2 1 十 ぶ 不 ← つ → 十 分 う 分	現状では十分な環境が整っているとされる。	○必要な環境が取られて対応できている

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
3.教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	大学生ホール、小学生ホールを2部屋、また、各所に椅子やソファが設置されており、休憩時間や自習時に学生が有効利用している。	学生用スペースとしては広く、充実している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	照明が暗い傾向にあり、点灯していない時間があるなどの部分を改善できるよう、働きかけを続けていきたい。	○十分なスペースが確保されている。
4.食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	食事場所は原則教室と学生ホールを開放している。 学内に売店はないが、弁当の注文販売を行っている。 試行的にキッチンカーが来校し、食事の選択肢がさらに増加した。	弁当と自動販売機によって購入の選択肢を広げている。自動販売機の商品はカップ麺や菓子パンの他、お菓子などを販売している。 キッチンカーは定期的に来校していただけるよう働きかけていく。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	食事場所のスペースは十分であるが、感染対策の亚克力パーテーションなどがあると良い。自動販売機の商品の種類や価格については随時検討していく。 学外ではあるが徒歩圏内にドラッグストア、コンビニエンスストアもあり、利便性は向上している。	○食事スペースは十分である。 ○食堂がない点は、自販機・お弁当注文等で十分補えている。 ○キッチンカーの導入は、学生の楽しみや交流に繋がり、よい取り組みと思われる。
5.学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	独自の支援制度としては、診療費補助制度や特別学費支援制度、家族割引制度がある。	一般病院から、またその他奨学金の案内をいただいた際は、随時掲示にて学生に連絡を行っている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	日本学生支援機構や一般病院等の奨学金に加え、高等教育無償化認可校となっている。	○一定の対策は取られている。 ○学校独自の奨学金制度も導入できるとよい。
6.その他	カリキュラム改正で理学療法学科、作業療法学科ともに科目を新設し、学生の自主性に任せていた国家試験対策を最低限必要な内容は教員主導で指導している。	模擬試験過去問ライセンス契約で学内模試の回数を増やし、スマートフォンで学習できるプログラム等を契約することで、教員が学修状況を把握し、個別指導を行う環境を整備した。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	学生の学修状況に応じて、個別性に特化した対応を取り入れる必要がある。なお、カリキュラム外での時間の使い方について学生に説明し同意を得た上で、その必要性を共有することも重要である。	○良好である。

4 教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

◇すべての専任教員が厚生労働省指定の臨床実習指導者講習会を修了した。

◇脳卒中患者会との教育連携ならびに社会貢献活動

①新型コロナウイルスの影響を受けつつも、奈良県の脳卒中患者会 2 団体の会員の方々に学内演習も含めて複数回にわたり模擬患者として協力いただき、学内でありながら臨地と同等の環境で学習する機会を得ることを計画した。

◇グループ内各施設との連携

①令和 4 年 8 月に和幸会グループ内に放課後等デイサービス「KIDS クラブたわら」がオープンし、動物介在療法授業等でより密な連携が可能になった。(OT)

②グループ内各臨床実習施設と実習スケジュールや学生の到達目標について調整を行い、課題のある学生などを柔軟に引き受けていただく環境を整えた。(PT・OT)

◇スポーツリハへの取り組み (PT)

①高校バドミントン部、大学水泳部に対してメディカルチェックを実施していることで、学生がスポーツリハに接する機会を多く持てるようになった。

②新型コロナウイルス感染症により接触する機会が制限される中、企業クラブとの連携を強化した。

※学校関係者コメント

OPT でのスポーツリハへの取り組み、OT での動物介在療法のより一層の充実だけでなく、2022 年度は阪奈フェスタ（学校祭）、夏休みイベントの開催、地域イベントへの参加等、勉強以外の活動が積極的にみられて、どれもよい取り組みと思われる。今後もさらに外へ向けた取り組みを期待する。

○世の中の動向として大学進学を選択する学生が増える中、PT、OT の良さと専門学校ならではの良さをもっとうまくアピールしてほしい。

特に OT は世間の認知度が低いが、精神・介護・福祉等の現場では需要がかなり高く、大変良い職業だということをもっと伝えていく必要がある。

OPT ではスポーツリハに力を入れておりスポーツ業界への就職志望者も多いと思われるが、スポーツトレーナーになるには PT 資格が強みになるということもアピールしてよい。